

# おきたま米づくり情報 No. 1

平成 31 年 3 月 15 日

JA山形おきたま  
やまがた攻めの米づくり日本一運動  
置賜地域本部実践班

- ・2018 産米は、一等米比率は高く、食味は概ね良好だった一方、7月の高温・干ばつによる稲体消耗や登熟期の日照不足の影響を受け、収量は作況指数 97 のやや不良（置賜地域）となりました。
- ・天候不順の中でも、安定的に品質・収量を確保するためには、稲の生育や土壌の状態をよく観察し、気象に合わせた栽培管理を積み重ね、稲を健全に育てていくことが大切です。2019 年産米は、下記の重点技術対策 10 項目に取組み、最高品質のお米に仕上げましょう。

## 2019 年産米 重点技術対策 10 項目チェック！

### 〈土壌環境づくり〉

#### 1. 有機物やケイ酸等土づくり資材を投入している。

土づくり資材投入の有無は出来秋に差がつく！異常気象対策には必須！

#### 2. 品種、地力に応じた施肥設計を行っている。

側条施肥、耕起後施肥等の施肥方法の工夫も有効！堆肥を施用した場合は必ず減肥！つや姫、雪若丸はマニュアルに基づく施肥量を遵守。

#### 3. 耕起前、排水溝を掘る等、排水対策を行い、田面の乾燥を図っている。

融雪の早い今年は乾土効果を得るチャンス！早めの耕起で稲わらの分解促進！

#### 4. 耕深を確保し、健全な根の生育環境づくりを行っている。

耕深は 15 cm 以上を確保！トラクターの耕起スピード、踏圧に注意！

### 〈健苗づくり・適期移植〉

#### 5. 充実した苗づくりを行っている。田植え日に合わせ計画的に播種作業を行っている。

田植え日から逆算した計画的な播種。充実した苗に仕上げる！伸びすぎ、老化苗×

#### 6. 適期移植を行っている。

移植適期は 5 月 15 日～20 日。5 月 25 日が晩限！

遅い田植えや、代かき後水を張ったまま長期間放置した場合、田植え時には土壌還元が進んでいる場合も。活着不良が懸念されるため、注意が必要！

#### 7. 適正栽植密度、適正植え付け深で田植えを行っている。

適正栽植密度は㎡あたり 100 本。【70 株/坪：植込み本数は 4～5 本に揃える！】

植え付け深は 3～4 cm。

株（植込み本数）を揃えて、茎数のバラつきを低減！浅植えで分けつ促進！

### 〈ワキ対策・中干し・適正穂肥〉

#### 8. 土壌還元が発生したら、速やかに水交換 or 田干しを行っている。

下葉の黄化、分けつの遅れは土壌還元のサイン！ひどくなる前に早めの水交換！

#### 9. 目標茎数を早期に確保し、6 月 25 日頃から中干しを開始している。

中干しを行い、穂肥できる稲姿に！作溝もセットで実施し、効率的な水管理を！

#### 10. 品種ごと生育診断を行い、適期・適量の穂肥を施用している。

穂肥の遅れは粒数確保に影響大！窒素の遅効きによるタンパク値上昇を招く危険も！

穂肥は早めの準備＆遅れず施用！

## ◎ 種子の予措 ～まずは良い苗づくりからスタート！～

### 1. 塩水選

- 塩水を作る際の比重は、うるち 1.13、もち 1.08 で行います。
- 塩水選後は、きれいな水でよく洗いましょう。

	比重	水 10ℓ 当り 食塩の量(目安)
うるち	1.13	2.1kg
もち	1.08	1.3kg

◎作業の前に「比重計」や「卵」などで確認を！

### 2. 種子消毒

- 薬剤処理の場合は、必ず使用方法（希釈倍数、使用時期、使用方法）を確認しましょう。  
薬液の温度が低いと効果が劣る場合があります。10℃以上の水温を確保しましょう。
- 温湯浸法の場合は、58℃20 分間又は 60℃15 分間で行います。古い種子やもち品種は控える（発芽率の低下をまねくため）。温湯処理が終わったら、直ぐに冷水で冷やした後、水漬けします。  
※温湯浸漬処理後直ちに浸種しない場合は、再感染抑制のため脱水後通風乾燥し、籾水分を 15%まで低下させる。

### 3. 水漬け ～温度計で確認を！！～

- 水温は 10～15℃とし、10～12 日間程度行います。積算水温で 120℃を確保しましょう。播種日から逆算して水漬けを始めます。必ず温度計を設置し、水温を確認しましょう。
- 2～3 日毎に水交換を行い、袋の位置（上下）を入れ替えて吸水ムラを防止します。
- 浸種開始時の水温が低すぎると、発芽率が低下することがあります。最初の水温は 10℃以上（ただし 15℃未満）になるよう調節しましょう。

### 4. 催芽

- 催芽は、30～32℃で 20 時間を目安とし、ハト胸状態を確認して終了しましょう。

## ◎ 播種 ～良い苗を適期に植えられるよう計画的に～

- 育苗期間が長すぎると苗が老化し、活着不良や初期生育が遅れる要因となります！田植えの計画に合わせて播種日を決めましょう。
- 10a 当たりに必要な苗箱数は、稚苗で 25 箱、中苗で 30 箱が目安です。

◎作業時期の目安【5月20日田植えの場合】

田植え日から逆算して  
計画的に！

苗の種類	乾籾重 (g/箱)	水漬け日	催芽日	播種日	育苗期間	田植日
稚苗	150～180g	4月12日	4月24日	4月25日	20～25日	5月20日
中苗	80～120g	4月2日	4月14日	4月15日	30～35日	

## ◎ ばか苗病対策 ～育苗床の周りにモミ殻などありませんか～

- ばか苗病を保菌している稲ワラやモミ殻、施設や機材に付着した菌などが感染の原因となることがあります。育苗ハウス内や資材をきれいにし、種子や苗を置く周辺の稲ワラやモミ殻は必ず撤去しましょう。前年ばか苗病が多発した場合は特に念入りに確認を！
- 水漬け温度が 15℃を超えるとばか苗病の発生を助長する場合がありますので、水温に気を付けましょう。特に日の当たる場所に水槽がある場合は要注意！

**STOP！農作業事故！**

まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全！